

令和 8 年度 奈良県 英語教育改善プラン

目標

ふるさと「奈良」を発信できるグローバル人材の育成
～児童の英語によるコミュニケーション能力の育成を目指して～

☒ 言語活動
 ☐ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☒ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教師含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①学習者用デジタル教科書の活用
- ②「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」の言語活動の実施

未だ改善が必要な点

- ①学校訪問や研修等アンケートから、下記の課題が見られる。
 - ・学習者用デジタル教科書の活用が進んできているが、改善の余地がある。
 - ・言語材料の練習にとどまっている。
- ②一定の英語力を有する小学校教師の新規採用数R6:14人⇒R7:18人

2. 要因分析

- ①②
「教育課程研究集会」や「英語専科教師連絡協議会」を継続して実施し、「目的・状況に応じた言語活動」をテーマに講義・実践発表・協議を重ねてきた成果だと考えられる。

- ①学習者用デジタル教科書を含むデジタル学習基盤とICT機器の有用性や使用例の共有や周知が不十分であったと考えられる。指導と評価の一体化への理解が十分でない。

- ②一定の英語力を有する小学校教師の確保人数は進んでいるが、目標値には達していない。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②①について

- ・「英語専科教師連絡協議会」を2回開催する。連絡協議会において、「言語活動の充実」「デジタル教科書等とICT機器の有効な活用」「指導と評価の一体化」に重点を置いた県内教師による実践発表を行う。
- ・英語専科教師が情報共有・交流できる場を確保するため、英語専科教師のためのGoogle Classroomを開設する。
- ・各市町村教育委員会指導主事等及び義務教育諸学校教師を対象に、デジタル学習基盤を授業改善にどのように活用するかを参加者間で共有し、各校における実践につなげるための研究協議会を実施する。
- ・全校を対象にした全国学力・学習状況調査の結果説明会を開き、小・中学校教育の一層の充実を図る。
- ・指導主事による要請訪問等で各校における授業改善を進める。

②について

- ・小学校英語教育推進特別選考や中学校英語免許所有者への加点制度の設定を継続することにより、確保に努める。

令和 8 年度 奈良県 英語教育改善プラン

目標

ふるさと「奈良」を発信できるグローバル人材の育成
～ICTを活用した「話すこと」を中心においた言語活動の充実を目指して～

○ CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合 (R7: 51.9% ⇒ R8: 55%)

☑ 言語活動 ☐ 指導と評価の一体化 ☑ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☑ ICTの活用 ☑ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ① CEFR B2レベル相当以上を取得している教師の割合が増加
(R6:47.4%⇒R7:59.2%)
- ② CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得または有すると思われる生徒数の割合が増加
(R6:45.3%⇒R7:51.9%)

未だ改善が必要な点

- ① 生徒の言語活動等の取組状況
・「まとめた内容を英語で発表する活動」
R6:69.6%(全国:82.4%)
- ② 授業におけるICT機器の活用状況
・学習者用デジタル教科書の活用を実施した学校の割合
R7:88.3%(全国95.4%)

2. 要因分析

- ① 教員研修や外部試験において、教師が自らの英語力を客観的に把握し、主体的に自己研鑽を継続したことで改善したと考えられる。
- ② 小学校段階からの言語活動の充実やICT機器の効果的な活用により、言語活動の質と量を高めたことで改善したと考えられる。

- ① 生徒が自分の考えを表現する即興的なやり取りにおいて、授業改善が十分に進んでいないことがうかがえる。
- ② ICT機器の活用は進んでいるが、学習者用デジタル教科書及び生成AIの機能を有効に活用した具体的な指導事例の共有が不十分であり、日常的な利活用が定着していないと考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①②について
・生徒の英語力向上のためには教師自身の英語力・指導力の向上が必要不可欠であるため、英語資格・検定試験の特別受験制度の活用や、研修の周知及び優れた実践の共有に努める。
- ①②
・全校を対象とした「英語授業力ブラッシュアップ協議会」の実施の継続。言語活動を通して指導することについて授業改善を進め、生徒の英語力向上につなげることを目的に、生徒が自らの考えを表現する、話すことの「やり取り」、「発表」の言語活動に重点を置いた研修内容とする。
また、参加教師による協議の時間を設定し、各校における学習者用デジタル教科書を含むデジタル学習基盤の活用実践を共有する時間を確保する。各校での効果的な活用場面（パフォーマンステストや個別学習等）や、端末を用いた指導と評価の一体化に関する実践を共有し、利活用率の向上を図る。
※小・中学校教育の一層の充実を図る。
・要請訪問等の活用による、指導主事による各校における授業改善を進める。
・昨年度から生成AIを授業で活用している実践校へ指導主事が訪問し、活用場面や方法について議論を深める。また、高校での活用事例も共有し、授業改善に努める。

令和 8 年度 奈良県 英語教育改善プラン

ふるさと「奈良」を発信できるグローバル人材の育成 ～「話すこと」「書くこと」の発信力強化～

目標

○CEFRA2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R7 : A2以上 54.5%、B1以上 19.5% ⇒R8 : A2以上 58%、B1以上 25%)

☐ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☐ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☐ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

- ①英語担当教師の英語力の状況（B2レベル相当以上）
(R6:81.0%
⇒R7:86.1%)
- ②授業における英語担当教師の英語使用状況
(R6:58.5%
⇒R7:64.1%)

- ①生徒の英語力の状況（A2レベル相当以上を取得または有すると思われる生徒）
(R6:56.5%
⇒R7:54.5%)
- ②CEFR B1レベル相当以上の英語力を取得または有すると思われる生徒
(R6:19.2%
⇒R7:19.5%)

2. 要因分析

- ①教員採用試験一次試験（教科専門）が英語資格の得点化となり、B2レベル相当を取得済みの教師が増えた。
- ②教師の英語力の状況が改善しているほか、評価や発信力強化に関する研修を経て、パフォーマンステストの計画、実施が徐々に増えつつある。そのため、授業中の生徒による言語活動が増え、教師の指導のあり方にも変化が見られる。

- ①教師が生徒の英語力を見取る機会や、実際に見取る際の共通認識や基準となるものさしが不足している。
- ②授業内外、学校内外において、英語を使ってコミュニケーションをする状況や場面を提供する機会が不足している。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①教師への情報発信の継続
英語教育に関する研修会や研究会等の情報を共通プラットフォーム（Google Classroom）にて積極的に発信し、教師が自身の英語力や指導力を向上できる機会を多く生み出す。
- ②授業観察等を通した粘り強い授業改善への取組
AIの活用等により学習や指導のスタイルが変化しつつある。指導主事がAI活用校を中心に学校を訪問し、教師と授業づくりを共に行う。また、中高連携による校種を越えた授業観察、授業研究を実施する。
- ①「指導と評価の一体化」によるパフォーマンステスト実施の増加
年間を通じて「話すこと」「書くこと」のパフォーマンステストの実施をバランスよく行い、生徒の英語力を見取る機会をもてるよう、各校の指導計画の作成を徹底する。教師が主体的に授業改善できるよう、教育課程研究集会や学習指導研究会等において啓発や助言を継続する。
- ①生成AIの活用事例研修
生徒の学習にAIを活用する事例が増えてきていることから、「教育課程研究集会」において、AIの効果的な活用に関する実践事例を共有し、生徒の学びへの効果とともに、教師の指導への効果（生徒の英語力の評価等）について議論を深める。
- ②英語で議論ができるグローバル人材の育成
県内の留学生との交流や、「高校生国際会議 in NARA」の開催（R4～）等、授業外で高校生が実際に英語を使う機会を設け、英語で意見交換ができる生徒の育成を目指す。

奈良県教育委員会

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		55	52.1	54	56.5	57	54.5	58		60	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		25	20.4	23	19.2	25	19.5	25		30	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		75	66.7	70	77.4	78		80		82	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		100	49.5	100	46.1	100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	70	69.6	72		74		77		80	
		達成状況の把握（％）	80	52.2	55		60		65		70	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		70	78.9	80	81	83	86.1	90		100	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		75	55.3	60	58.5	65	64.1	67		70	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		50	43.5	50	45.3	50	51.9	55		60	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		75	49.5	75		75		75		75	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		90	97.7	100		100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	78.6	100		100		100		100	
		公表（％）	70	38.8	70		70		70		80	
		達成状況の把握（％）	80	55.3	80		80		80		90	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		50	40.1	50	47.4	50	59.2	65		70	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		75	36.6	75		75		75		75	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	85	67	85		85		95		100	
		公表（％）	30	21.3	30		45		60		75	
		達成状況の把握（％）	65	47.9	65		65		75		85	